

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②事業者情報

名称：	志木どろんこ保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	園長 古賀 文子	定員(利用人数)：	90 名
所在地：	〒353-0003 埼玉県志木市下宗岡2-15-46	TEL	048-471-6010

③評価実施期間

平成26年11月17日（契約日）～平成27年3月30日（評価結果確定日）

④総評

**◇特に評価の高い点**  
 <さまざまな体験を通してコミュニケーションができる子どもを育成しています>

当園は、開園して3年目になります。「人対人コミュニケーション」を保育目標の一つに掲げ『物怖じせず、誰とでも目を見て話ができる子ども』の育成に向けてさまざまな体験の機会を提供しています。

「商店街ツアー」は、お店の人と話す機会、仕事を見る機会を幼少期の子どもに1回でも多く与えるための取組です。0歳児から参加し、3歳児以上は、お店の人に質問をしてコミュニケーション能力を身に付けてゆきます。

毎週水曜日に、理髪店、たみみ屋、すしや、スーパーマーケット、図書館などを訪ねて、仕事を目の前で見てもらいます。ほかにも、毎月高齢者施設を子どもが訪問して、歌を歌ったり、話しをしたりするなどして交流を深めています。

また、裸の付き合いを実践できる「銭湯の日」を毎月設定しています。3歳児以上はバスで銭湯に行き、職員や地域の人、お友だちと背中を流し合い、子どもは毎回楽しみにしています。

地域の行事、「ふれあい祭り」「どろんこ祭り」に参加し、「青空保育」では、月に1度同じ公園で地域の親子とともに過ごし、すれ違う人全てに挨拶をしています。保育園には、中学生やボランティア、地域の親子が訪れるので、子どもは園内でも職員意外の人と交流の機会があります。2歳児以上は、毎日、雑巾がけと座禅、飼っているやぎの世話をするなど、人としての心にも目を向けた多彩な取組があります。

多くの人と出会い、さまざまな体験を通してコミュニケーションができる子どもの育成に取り組んでいます。

<充実した戸外活動で、「センス・オブ・ワンダー」の実現に取り組んでいます>

保育目標の一つは、「センス・オブ・ワンダー」です。原体験を大切に考えて、戸外活動を充実させ、子どもは泥んこになって日没まで元気に遊んでいます。園庭には、築山、木登りができる椎の木、手作りの隠れ家のような建物（家）、たき火コーナーがあり、子どもは自由な発想で遊びます。土踏まずを形成して運動感覚を育てるために基本的に裸足（ときには草履）で過ごしています。そして、「汚れるからダメ」「走っちゃダメ」など、子どもにとって必要な機会を排除する「ダメ」を保育者は使いません。生きる基礎となる、心情、意欲、態度を育てたいと考えています。

自由参加で、キャンプや雪遊びのツアーも実施しています。お散歩や親子遠足のほかに、毎月の遠足を実施し、土手でお花見をしながらお弁当を食べたり、土手すべりをしたりしています。泥遊びや落ち葉拾いをするなど、自然に触れ季節を感じ、外遊びが「日常化」しています。

<野菜の栽培などの食育活動を積極的に行っています>

畑やプランターに、種まき、苗植え、収穫など、「農業年間計画」を立てて取り組んでいます。4月はピーマンの苗植え、じゃが芋の種苗植え、とうもろこしの種まきです。3月まで計画があり、なす、すいか、ほうれんそう、たまねぎ、大根などそれぞれを子どもが種をまいたり植えたりして、大切に育てて収穫して食します。収穫したなすを全て給食のマーボ豆腐に入れて提供したこともあります。また、大豆畑では、種をまき、花が咲き、枝豆になり、大豆になるまでの過程を目の当たりにした子どもが、変化や不思議を感じてたくさんの気付きを得ています。

給食のお米は、新潟の南魚沼の田んぼで収穫したコシヒカリです。自由参加で3～5歳児の子どもが、春の田植え、秋の稲刈りに1泊2日で出かけます。途中経過は、現地からネット配信されるなど、子どもは、土に触れ、食の大切さやありがたみを体験から感じる貴重な取組です。

## ◇特にコメントを要する点

<各保育室の壁面の工夫について検討されてはいかがでしょうか>

当園は、戸外遊びを主眼に置いています。室内のコーナー保育に関しては、昨年度から充実に向けて取り組んでいます。壁面については、季節の子どもの作品などが飾られていますが、保育空間としての展開が期待できそうです。部屋に入ったときの雰囲気やいごちのよさは、子どもの年齢や職員によって感じ方はさまざまですが、壁面の構成、デザイン、演出、環境、どのように捉えるのか再確認し、さらにやすらいで過ごせる各保育室の空間について、検討されてはいかがでしょうか。

<3分間お迎え対応の充実を望みます>

保護者の視点に立った取組の1つとして、「3分間お迎え対応」運動を実施しています。保護者にとって子どもがその日どのように過ごしたかということが、とても知りたい情報であり、会話の中から保護者の内に秘めた思いを職員がくみ取るうえでも、効果的な取組です。しかしながら、一部に実施が完全でない場合があります。お迎えが重なる時間帯は、職員も常に配慮が必要となります。取組について、職員によりいっそう働きかけ「3分間お迎え対応」の充実を望みます。

## ⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価は、日頃取り組んでいる保育内容および運営全般について外部からの視点で気づきを得る

非常に有効な取り組みであると認識しています。

ここで明らかになった課題、成果、問題点などを職員及び法人全体で共有し、より一層質の高い保育サービスの実践のためにどんな取組が必要か、具体的なアクションにつなげてゆきたいと考えています。

よろしくお願い致します。

## ⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり